2022 年７月１日発行

点訳通信

112号

日本ライトハウス情報文化センター
点字製作係
発行責任者　竹下　亘
〒550-0002　大阪市西区江戸堀 1-13-2-8F
TEL 06-6441-1028（点字製作係直通）

重苦しい雰囲気が続いたコロナ禍を徐々に抜け出し、活動に活気が戻ってきました。

先日、日本点字委員会の総会と研究協議会が会場参加とオンラインの併用で行われました。会場では参加者に回覧資料が配られ、会場ならではの実触体験ができ盛り上がりました。ここ２年余りの間、オンライン開催のイベントがほとんどでしたが、参加者どうしで意見や感想を言い合ったり、言葉以外の反応が伝わってきたりと、実際に対面で行うことの楽しさを感じました。コロナが私たちに残した爪痕は多々ありますが、うまく共存しながら活動していきたいものです。　（点字製作係　奥野真里）

【休館のお知らせ】

７月１６日（土）　月曜指定祝日のため休室
８月１１日（木）　祝日（山の日）のため休館
８月１２日（金）～１６日（火）夏期休館
９月１７日（土）　月曜指定祝日のため休室
９月２３日（金）　祝日（秋分の日）のため休館

(C) WANPUG

地域の学校で学ぶ視覚障害児童・生徒に点字教科書が行き渡るように

全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会（教点連）をご存じでしょうか。

２００５年にＮＰＯ団体として発足し、これまで地域の小中学校で学ぶ視覚障害児童・生徒のための点字教科書の供給に向けて活動してきました。盲学校（現在は、視覚特別支援学校）での教育は約１５０年前から行われており、同じ視覚障害を持つ児童・生徒が在学し、一般教科や視覚障害者に必要な点字・歩行などの特別技能を学ぶ環境が整えられて

います。そして約５０年前から、目の見える児童・生徒とともに地域の学校で学びたいという意向が増えてきましたが、その受け入れが可能かどうかは各自治体の判断に任されていました。当時は点字による教科書・教材が、授業開始前に本人の手元に届けられるという環境は整っておらず、学校の学習と同時進行で点字教科書などが日々そろえられていたそうです（授業に間に合わないことも珍しくはなかったとも聞きます）。その後、パソコン点訳の広がりとともに、地域で学ぶ子どもたちのための点字教科書が徐々に供給されるようになってきた頃、全国に点在する教科書点訳ボランティアの方々や点字教科書の出版に関わる施設などのネットワークを構築するために教点連が立ち上げられました。

教点連は、教科書製作をする上での点訳方法の情報交換、点訳のスキルアップ研修会や視覚障害児童・生徒の学習課題を知るためのセミナーなどを行ってきました。現在は３０ほどの点訳ボランティアグループ、点字図書館、点字出版施設などが会員として参加しています。本会の事務局はこれまで東京を拠点に業務を行ってきましたが、今年度から大阪に事務局を移し、地域の学校で学ぶ視覚障害児(者)の点字教科書等の保障を求める会、名古屋ライトハウス、日本ライトハウスの３施設・団体で共同運営することとなりました。日本ライトハウスは、教育委員会や学校からの問い合わせ、点訳グループのコーディネイトを担当します。

２００５年に会が発足して以来、社会の状況も大きく変わってきています。教科書バリアフリー法、障害者差別解消法、読書バリアフリー法など、様々な法律が施行され、視覚障害児童・生徒の地域の学校で学びたいという希望が受け入れられやすくなり、よりいっそう、インクルーシブ教育のケースが増加しています。一方、その教育現場を支える先生や支援者の体制はまだまだ不充分であり、すべての教科書・教材が供給できていないという課題もあります。

長年にわたり視覚障害児童・生徒への支援に力を入れてきた当館への期待は大きく、毎年、全国の自治体から多くの相談、依頼が寄せられています。これからも、子どもたちの学びのために、ボランティアの皆さまのご協力のもと、一つ一つの課題に丁寧に向き合い、円滑に点字教科書を提供できるよう、模索していきたいと思います。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

【新任職員の自己紹介】

この４月より点字製作係で勤務しております、岡田直美（おかだなおみ）と申します。今まで点字と関わることはほとんどなく、一から勉強させていただいております。まだまだわからないことばかりのため、なにかとご迷惑をおかけするかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

外食が好きで、休日にランチに行ったりしています。食べたいものを食べたい時に食べられるなんて、昔の時代ならお殿様やお姫様ぐらいかと、ありがたいな幸せだなと思いながら楽しんでいます。同様に、本を読みたい、勉強したいなど、自分のしたい事をしたい時に出来るというのも、とても幸せな事ではないでしょうか。ボランティアの皆さまのお力を借りながら、誰かのそのような望みを叶えるためのお手伝いが少しでも出来れば、とても嬉しく思います。

点訳・校正のカフェブレイクに！　その４
～カギで囲まれた語句や文の間のマスあけは？～

(C)WANPUG

カギで囲まれた文が並列して出てくる場合のマスあけは、「点訳のてびき（以下、てびき）第４版」になり、とてもシンプルな考え方ができるようになりました。しかし、あの悩ましかった「てびき第３版」の規則と混同してしまう方も多いようです。

「てびき第３版」では、

- カギ類で囲んだ独立した文が並列する時や、カギ類を閉じた後ろに新しい文が始まる場合は、その間を２マスあける。
- 一つの文の中に、カギ類で囲んだ文が並列する時は、その間を２マスあけて書いてよい。

という規則でした。カギで囲まれた語句や文が続けて出てくると、並列しているのか、会話なのか、前後の文脈からその関係を考えなくてはなりませんでした。

一方、「てびき第４版」では

- カギ類で囲んだ独立した文が並列する時や、カギ類を閉じた後ろに新しい文が始まる場合は、その間を２マスあける。
- **一つの文の中に、カギ類で囲んだ語句や文が並列する場合、閉じカギと開きカギとの間は１マスあける。**

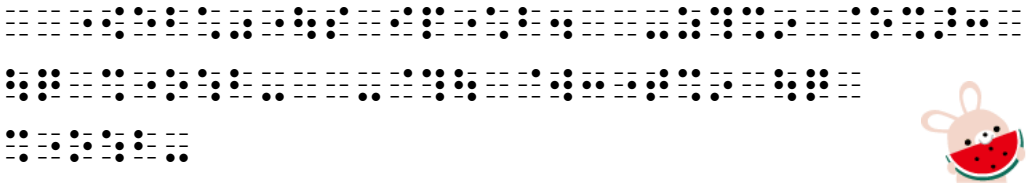
と変更されました。

ところが、これまでの習慣から、一つの文の中に、カギで囲まれた長い文が並列していると、カギ閉じとカギ開きの間を２マスあけされているケースをしばしば見受けます。

今後は、「カギ類で囲まれた語句や文の一つ一つが独立している場合は間を２マスあけし、文中で並列している場合は、１マスあけにする」とシンプルに考えてみてください。文中に短文が並列しており、それらが読点で区切られている場合は読点のあとを１マスあけにするのと同様に、カギで囲まれた短文が並列していても１マスあけになるということなのです。

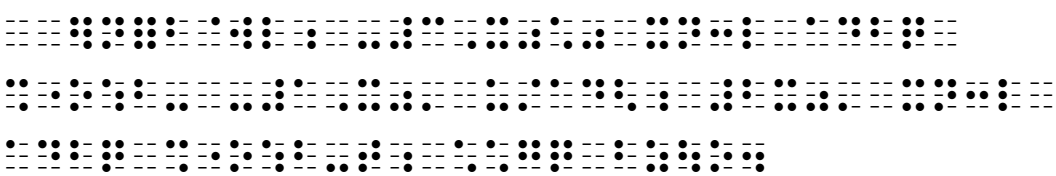
（例）

ご来館時のお願い。「マスクを着用してください」「手指消毒をしてください」



(C)WANPUG

説明書に、「３分間普通に歩いてください」「１分は早歩き、２分は普通に歩いてください」と、書かれていました。



【専門点訳講習会のお知らせ】

①「写真・図・イラスト点訳コース」

点訳をしようと書籍を開くと、写真やイラスト、図が掲載されていて、思わず閉じてしまいそうになったという方は少なくないと思います。それは、目でみた画像を言葉で伝えるのは難しいことだと思い込んでいるからかもしれません。じっくり本文を読んで、画像の意味することや、なぜこの資料が必要なのかを紐解いていけば、思いのほか難しくないものです。

本講習会では、画像資料をどのように理解していけばよいのか、また点字でどのように表現すればよいのかを、実際に皆さんと対話しながら考えていきたいと思います。

日　　時：　９月６日、１３日、２０日、２７日(全４回)
　　いずれも火曜、１３～１５時
会　　場：　当館４階会議室
定　　員：　１５人
講　　師：　奥野真里（点字製作係主任）
受 講 料：　１，０００円
申込締切：　８月２０日（土）

②「教科書・教材点訳入門コース」

一般書は何冊か点訳したことがあるけれど、教科書や教材の点訳はまだ経験がないという方を対象に、教科書・教材の点訳に関する現状や、点訳のポイントなどについてご紹介します。「難しそうだけどやってみたい」、「どんな風にしたらいいのだろう」と思われている方、ぜひご受講ください。

日　　時：　９月２４日、１０月１日（全２回）
　　いずれも土曜、１０～１５時
会　　場：　当館４階会議室
定　　員：　１５人
講　　師：　奥野真里（点字製作係主任）、ほか
受 講 料：　１，０００円
申込締切：　９月６日（火）

上記の講習会に関するお問い合わせ・お申込みは、点字製作係までお願いします。
電話：０６－６４４１－１０２８　　メール：tenji@iccb.jp